

授業科目 保健医療福祉連携学III(保健・地域)

【担当教員名】 佐藤 敏郎 他	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・義肢・臨床・健康・スポーツ・社会・看護・情報
	開講時期	前期	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：G10】
 <概要>
 現代社会においては、地域で生活する生活者の視点で保健、医療、福祉、教育を考えていくことが求められている。特に、日々の生活におけるQOLを高めるためには、各世代におけるライフステージに応じた健康増進プログラムの立案と、それを支えるヘルスプロモーションを保健師、管理栄養士、健康運動指導士、理学療法士などの職種が連携して行なうことが求められる。この職種間連携について本講義では学習する。
 <G10>
 子どもの健康教育、生活習慣病予防、転倒予防など、ライフステージに応じたプログラムを立案することにより、各職種の独自性と連携の関係を理解する。

【学習目標・行動目標：SBO】

1. 保健・地域の現場における各専門職の役割について列挙する。
2. 保健・地域の現場における連携の必要性について説明する。
3. 保健・地域の現場における多職種の連携の実際について述べる。
4. グループワークを通して、それぞれが学んでいる専門分野の立場から意見を述べる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
1	【オリエンテーション・講義】保健・地域の現場における多専門職間の連携の必要性とその実際	1	担当教員
2	【講義】保健・地域の現場における実践例（1）	2・3	
3	【講義】保健・地域の現場における実践例（2）	2・3	
4	【講義】保健・地域の現場における実践例（3）	2・3	
5	【グループワーク】提示事例の検討	4	
6	【グループワーク】提示事例の検討	4	
7	【発表会】グループ検討内容の発表	4	
8	【リフレクション】授業のまとめ・グループのふりかえり	4	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	その都度配布			

【評価方法】 出席は2/3以上を前提とする。 1. 授業への出席状況40% 2. その他、グループワークへの積極的取り組みやレポート等が60% 授業中は積極的に発言すること。	【履修上の留意点】
---	-----------